

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立循誘小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（%）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	73.8	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	88.1	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に して、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	90.4	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎友だちとの話し合いを経て自分の考えを深めたり、新しい視点に気付いたりできている。対話的な学びを通した思考の広がりや深化が着実に身につけている。

◎学習内容の振り返りを行い、分かった点や課題を見直し、次の学習へつなげることができている。主体的な学習の調整や振り返りの習慣化が成果として表れている。

●自分で見通しをもって主体的に学べる授業づくりや、学習への意欲を高める工夫が必要である。

●自分に合った調べ方や学習方法を選択・実行できるよう、具体的な指導やサポートを実現させていく必要がある。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	78.5	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	80.9	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	85.7	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	88.0	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	81.0	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	97.6	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎将来の夢や目標をしっかりと抱いて日常の学びに臨んでいる。目的意識の高まりがみられる。

◎日々の生活の中で幸せや充実感を感じながら過ごすことができている。心の安定や高い幸福感が維持されている。

●すべての児童が安心して楽しさを実感できる学校環境づくりや、魅力ある授業・活動の充実が課題。

●地域社会とのつながりを実感できる体験活動や、社会参画への意欲を高める手立ての工夫が必要である。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.6	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	78.6	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

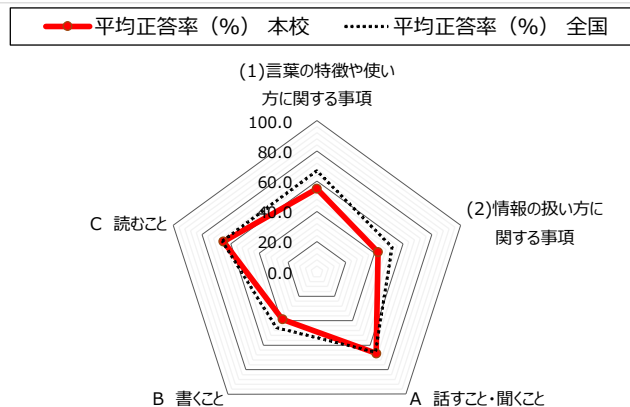
- 互いの良さを認め合う活動（名人の木）を通して、自己肯定感や自己有用感を高め、誰もが安心して楽しく登校できる学校環境をつくります。
- 安心して学びに集中できる環境を整えることで、主体的に課題に向かい、自分なりの学び方を工夫する力を育みます。

【ご家庭では】

- 「今日楽しかったこと」や「新しく分かったこと」を話題にし、お子様の工夫や努力を前向きに褒めてあげてください。子どもたちの自己肯定感や学習意欲の向上につながります。
- 落ち着いた環境で机に向かう習慣を整えるとともに、疑問に思ったことを一緒に調べるなど、自分で考え工夫して学ぶ姿勢を温かく見守ってください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	55.0	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	42.5	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	66.7	65.8
	B 書くこと	38.8	45.7
	C 読むこと	65.0	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	56.4	61.9
短答式	50.0	62.6
記述式	52.5	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎ 文章を正しく読み取った上で、自らの経験や当事者意識のもとで自分の考えをしっかりと深め、まとめることができる。
- ◎ 文中で正しく漢字を活用・表記する基礎が身に付いている。
- 記述・作文問題において、原稿用紙に書く際の条件を十分に確認しないまま書き始めてしまい、書き始めのミスや形式上の不備が多い。設問の指示や条件を最後までよく読んで書き始める習慣が必要である。
- 単なる暗記にとどまらず、文脈の中で正しく活用できるよう、児童が主体的に漢字の書き取り・学習に取り組む姿勢と定着を促す必要がある。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 三 (2)	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	77.5	76.4
2 三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	75.0	80.0

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	25.0	45.2
2 四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	27.5	33.5

調査結果を受けて

【学校では】

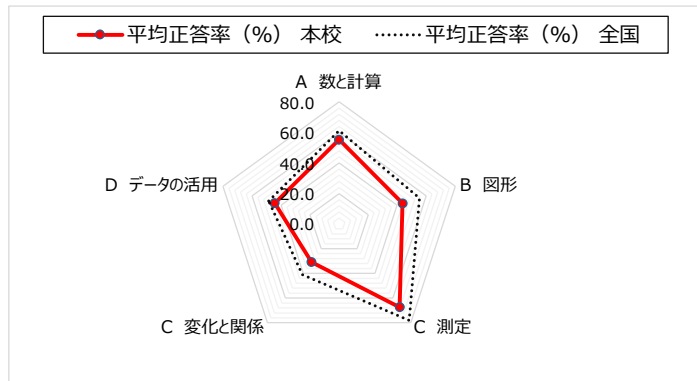
- 記述・作文問題に取り組む際、設問の指示や原稿用紙のルールにアンダーラインを引かせるなどして、書き始める前に条件を最後まで確認する指導を徹底する。
- 単なる暗記にとどめず、児童が文脈の中で正しく漢字を習得できるよう、個々でどうやって習得するかを自ら考えさせる指導を行う。
- 漢字の使い方や意味の理解を深めるため、授業の中で子どもたち同士で学び合い、お互いに確かめ合ったり教え合ったりする活動を取り入れる。

【ご家庭では】

- 宿題や家庭学習で作文、記述問題に取り組む際も、設問の指示や条件に線を引いてから書き始めるよう声をかけてください。
- タブレットを活用して筆順動画を確認したり例文を作ったりするなど、お子さんが前向きに学習に取り組めるよう声をかけてください。
- 一律の丸暗記ではなく、お子さんの得意な覚え方やペースに合わせた方法を取り入れ、児童に合った漢字の習得を家庭でサポートしてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	55.3	61.1
B 図形	43.8	55.3
C 測定	67.5	78.1
C 変化と関係	30.8	41.1
D データの活用	44.4	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	50.5	56.0
短答式	51.9	59.7
記述式	46.7	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎測定や数と計算領域を中心として、十進位取り記数法の仕組みの理解や、四捨五入して概数で表す技能がしっかりと定着している。

- 二次元の表を活用し、条件に合う数値を的確に読み取る力に課題がある。
- 割合に関する学習において、基準値・比較量・割合の関係性を図で正しく把握する力が不足している。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつることができるかどうかをみる	92.5	94.5
2 (1)	数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる	77.5	66.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	17.5	17.9
2 (4)	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	25.0	34.2

調査結果を受けて

【学校では】

- 基準量・比較量・割合の関係などを整理できるよう、算数用語を使った授業を展開し、説明活動や話し合い活動を通して用語の意味を意識した指導を行う。
- 式や言葉だけでなく、図や表を用いて自分の考えを記述・説明できるよう、日々の授業から書く作業を取り入れる機会を意図的に設ける。

【ご家庭では】

- 問題文に出てくる図や表について「どこに何が書いているか」をお子さんと一緒に確認し、条件や関係性を正しく読み取るよう声をかけてください。
- 日常生活や宿題の中で算数用語を正しく使っているか意識し、自分の考えを言葉や文章で表現する経験を重ねられるようサポートしてください。